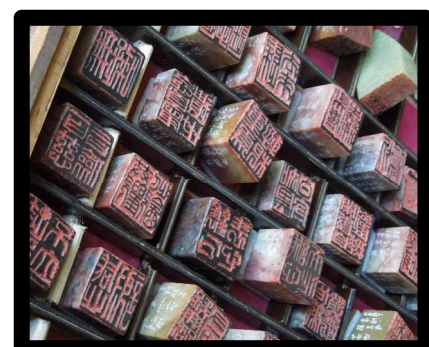


ピンダマン通信

書道家・篆刻(てんこく)家 **鈴木啓義**(すずきけいぎ)
先生の仕事場にお邪魔しましたのでレポートします！

題字：鈴木啓義
2014年
11月号①



狛江市のスポーツ・文化クラブ「こまわくらぶ」。
そこで書道教室をされている鈴木先生とお知り
合いになったピングプラン。

書道だけではなく篆刻もされる鈴木先生。
この度、その魅力を広げるお手伝いをさせて頂け
ることになり、仕事場取材に行きました！



■鈴木先生 ご経歴紹介■

老舗の東京・鳩居堂銀座店にて雅印製作を担当。
総理経験者達や、井上雄彦氏の印などを手がける
……バスケット好きな弊社社長としてはスラムダンクの作者
井上雄彦氏の印を手がけるという部分でメロメロですな。

閑 静な住宅街の奥の奥へと。そして、玄関を潜り仕事場の中に入れて頂いて直ぐに驚きがありました。
本棚に所狭しと納められている関連の書籍は、日本の古いものだけでなく外国のものもかなり。カシュガ
ルや敦煌にも赴き勉強されるそうです。その本棚も含めて家具や棚などが鈴木先生による自作なのですが、
どれもこれもが「ああ……いいなあ……」と思える渋いものカッコいいものばかりで。話を伺うと、どれも釘を使
わないで作っているもので、貴重品同様の家具に囲まれすぎて緊張しました。

……とは言っても。本棚にある本がどれもこれも魅力的でいろいろと手に取らせて頂いているうちに緊張も
解れました。沢山の書や篆刻に関わる書籍があり油断するとずっと本を読んでしまいそうです。

～・～

中国のお茶などを頂いて落ち着いた後。石井の名前「一生」で印を実際に
作って頂くという願いをし、その過程を取材します。

こうも、驚きの連続になるとは思っても居ませんでした！

まず、半日近く滞在してその大半を「一生」の印を作る為の時間になったので
すが、時間を一番かけるのは彫るところでは無かったところですが。私のような
素人考えですと、実際に篆刻刀で石を彫るところに時間がかかると思ってい
ましたが

……実際には！

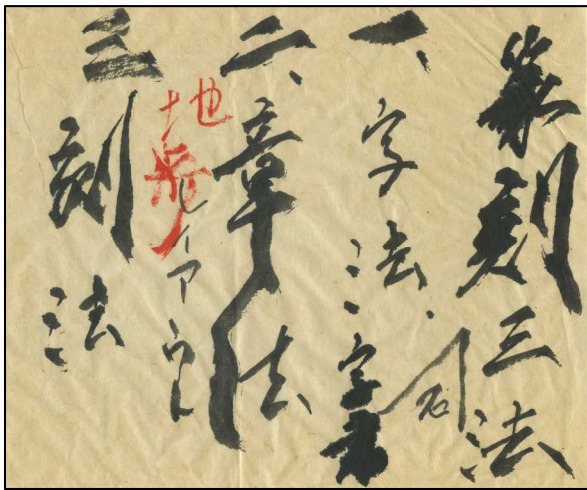


篆刻三法

まず、鈴木先生より**篆刻三法**というのを教わります。

それに従い、実際に篆刻刀を持つ前にじっくりと丁寧に考えを重ねて、その末にようやく石を選び彫り始める段となります。

様々な資料にも当たりながらこんなにも考えて作って頂けるとは、この現場を体験できたのは幸運でした。
ちなみに、鈴木先生は字体について金文も含め草書・行書・楷書全てを扱います。
その中で、より相応しいものを考えて頂けます。



篆刻三法を教えていただく際のメモ。
メモ書き1つでも、凄く大切にしたいくなる

素材

素材についても教わります。
例えば表札に用いる素材等も例に取り、篆刻の材料だけではなく木や竹、そして石の事などを事例をもって教えて頂きました。

そして..... 遂に彫り始め

鈴木先生の爪は綺麗に切り揃えられています。そして右手の人差し指は繰り返される作品作りの中で変形しており、風格を感じます。その手が、指が、一気に彫りという動作に向かいます。

実際に彫る姿も驚きが。てっきり石を何かに固定して行うのかと思いましたが、鈴木先生は石は固定せずに左手で持ちます。その方が右手でより自在に、適切に彫れるとこのこと。

字の書き順に沿って、勢いを魅せた彫りを恐ろしい速度と正確さで進めていきます。



そして、試打を行い仕上げを行い完成！感嘆する取材班一同。

鈴木先生はそれだけではなく、その印を納める箱も作って下さいました。仕事場の庭に生えている竹から作った素材で、箱の「つめ」等も作っています。何かかも丁寧に考えて頂き、作っていただき、その箱も先生が作って頂ける。長く使うものや、大切な人に贈るものはこんな風に行き届いたもので有りたいと思えました。



鈴木先生のお仕事に興味がありましたら浦田までにご連絡下さい。【 info-cs@pingplan.com 】
先生の作品の価格を聞いた結果、『印鑑や表札等を作る時は鈴木先生にお願いするぞ！』
と私は大幅に心がせせりあがっております。



石井です。会社の行き帰り、出張の移動中、みなさん何をされていますか。

ともするとスマホでゲームとかになりがちな昨今ですが、私は基本的に長距離移動に読書(新幹線は電波状況良くないですし、飛行機は携帯つながりませんから)、車移動のときは音楽もしくは音声セミナー、という定番があります。そして普段の短距離移動の際は、だいたいSNSのチェックとかですかねえ。



しかし短距離移動が、大きく変わってしまいました。Google内のプロジェクト、Niantic Labsが提供する「Ingress」というゲームのおかげです。

Ingressは位置情報を利用した**スマホのゲーム**です。プレイヤーは青(Resistance)と緑(Enlightened)の2陣営に分かれて、地球上の領域を多く確保するために争います。拠点(portalという)を制圧し、拠点間にバーチャルな線を引き、拠点間に三角形を作りながら面積を拡大していくのです。そしてその拠点は「形あるもの」に設定されています。

街中の**銅像や、変な看板、お地蔵さん、寺、駅**など様々です。



普段なにげなく見ている世界が、Ingressのアプリ(Scannerという)を通すと、別世界に早変わりするわけですね。画面は黒地に青と緑のネオンカラーが光る、レトロフューチャーというかサイバーな感じになっています。



で、これにハマった人々がすごいんですね。セスナ機をチャーターして北極の上を飛んでみたりとか、富士山の山頂にportal確保に行ってみたり、拠点間を繋ぐためにハワイや台湾のチームと連携してみたり。もちろんそんな大きいことじゃなくても、ピングプランのご近所、秋葉原では日々青と緑の戦いがScanner上で繰り広げられています。

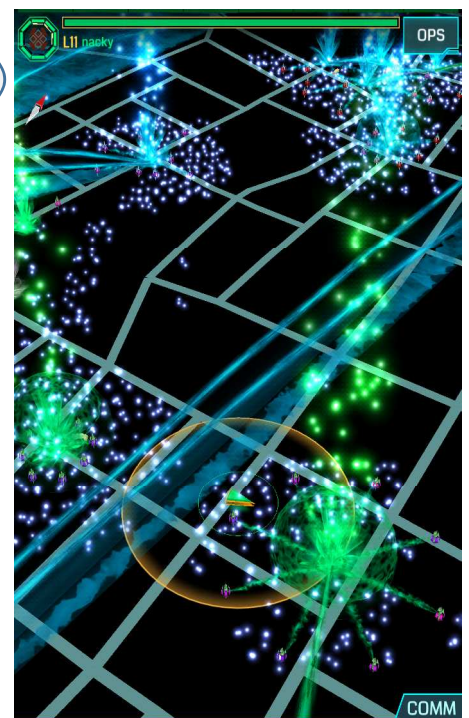
Ingressのゲーミングによる効果
はいくつか語られています

- ▼外に出ないとゲームにならないので、出かけるようになる
- ▼普段の生活で気づかなかった祠やお地蔵さん、オブジェに気づくようになる
- ▼とにかく歩くので、痩せる
などが代表的なところでしょうか。

ゲーム自体は無料ですが、快適にプレイするために、自転車や携帯用バッテリーなど、さまざまなものに「リアル課金」するようになってきます。

ちなみに石井は緑(Enlightened)でプレイしております。浦田と藤野も偶然ながら緑です

(社内で別の陣営がいるとなかなか荒れるそうです)。



みなさまのご参加をお待ちしております(^^)



ジャカルタレポート

石井です。10月頭にインドネシアはジャカルタへ行ってまいりました。複合的な目的がありつつ、メインはTrade Expo Indonesia 2014の見学です。私はインドネシア語がわかりません。英語もなんとかアメリカ旅行ができる程度です。事前のホテルなどはインターネットが便利でしたので苦労しませんでした。

0日目 23時半にスカルノハッタ空港へ到着、インターネットがないと死んでしまう私はプリペイド携帯用のSIMカードを売っている店を探します。一応あるにはありましたが、なんか高い気がする...ということで、とりあえずはホテルへのシャトルバスに乗り、翌日探すことにしました。空港とバス、ホテルはフリーのWiFiがあったので接続できました。

1日目 Expoへは昼から行くことにして、朝から市中でSIMカード探し。駅の建物内で店をみつけたものの、「担当者がいないから売れない」ということで、買えず。セブンイレブンでも買えるようでしたが、標準サイズのSIMしか見つからず、SIMカッターもないということで、micro SIMがほしかった私はここでも買わず。さらに市中の怪しそうな店で声をかけられ、色々ありまして、プリペイド代金をリチャージするカードが入ってない状態で高く買ってしまいました...ちゃんと確認しましょうねー

～・～



なにはともあれ、携帯を確保しましたのでExpoへ行きました。インドネシアの産業は、なんかもう日本とかと変わらないレベルなんですね。今のところは価格差の有利もあるので、日本産業はさらなる工夫でリードしないと危ないです。見事な木材加工品も多数ありまして、自分の実家(秋田県能代市)の木材加工産業は既に衰退してきていると言われていましたが、こういうところとも張り合わないといけないんだなと思いました。また、全体的に欧米化が進んでいるので、文化の違いを感じるような製品をあまり見なかった気がします(そもそもが外国人向けの展示会なので合わせている部分もあるでしょうけども)。

2日目 引き続きExpoの後、ジャカルタ・ジャパン・クラブという商工会のような組織にお話を伺いに行きました。国の事情などさまざまなお話をうかがうことができました。

その後、夜は携帯を片手に市中をうろろ...Ingressです(前の記事参照)。街中を歩いているとScannerを通じて相手(青)のプレイヤーに呼びかけられました。実際に指定の地点へ出向くと青年2名が待っていて、流暢な英語で話してくれます(私はカタコトですが、ゲーム用語が多いので意味は通じていたはず!)。車に乗せてくれて、さらに他のportalを案内してくれました。何にも用意してませんでした、Ingressで国際交流ができました...?

3日目 飛行機が朝6時発でしたが宿に戻ったのが午前1時。仮眠のような状態で空港へ向かい、怒濤のジャカルタは幕を閉じたのでした。

今号補足用語集

篆刻:「てんこく」。印章を作成する行為。中国を起源としており、主に篆書を印文に彫ることから篆刻というが、その他の書体や図章の場合もある。

SNS: コミュニティ型の会員制のサービス。ピングプランでは、これからは『google+』が来るのではないかと睨んでいます。

ジャカルタ: インドネシアの首都。都市圏は2600万人と言われ世界2位。(1位:東京)今年でもう人口が2.5億を超えました.....ここでピングプランが面白いサービスを何か提供できないかなーと考えたりもします。